

中部様式1

平成30年度 地域公共交通確保維持改善に関する自己評価概要（全体）

津市地域公共交通活性化協議会

平成20年8月20日設置

フィーダー系統 平成29年5月30日 確保維持計画策定

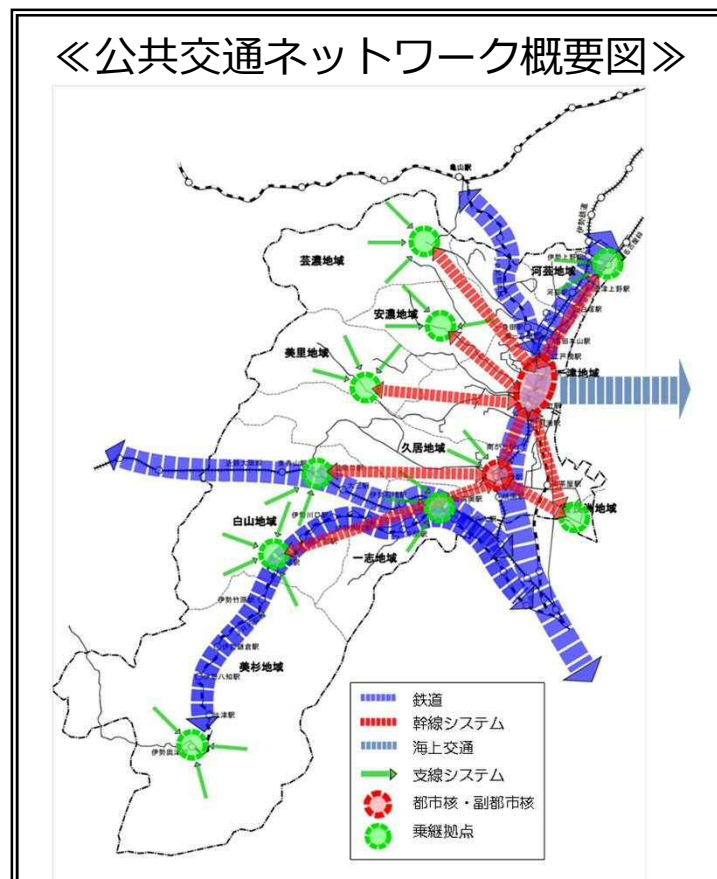
津市の概要

面積	711.19km ² (県内最大)
隣接自治体	鈴鹿市、亀山市、名張市、伊賀市、松阪市、奈良県 (御杖村、曾爾村)
経緯	平成18年1月 10市町村が合併して誕生 平成22年4月 旧市町村で実施していたバス事業を「津市コミュニティバス」として再編 → 平成25年4月 本格運行開始

津市地域公共交通網形成計画

基本理念	一体感のあるまちづくりを支え、誰もが移動できる公共交通体系の実現
基本方針	① 地域をつなぎ、住みやすいまちづくりを実現する公共交通ネットワークの構成
	② 地域の特性に応じた利便性の高いコミュニティ交通の実現
	③ 公共交通サービスをサポートし、利用促進につながる交通体系の実現
	④ 持続可能な交通サービスが提供できる交通体系の実現とPDCAサイクルの確立
	⑤ 市民、交通事業者、行政の協働による仕組み作り
計画期間	5年間 (平成27年4月～平成32年3月)


《公共交通ネットワーク概要図》



網形成計画に位置づけられている主な事業

- ・ 鉄道に合わせたコミュニティ交通のダイヤ設定
- ・ 津市自主運行バス（廃止代替バス）の見直しへの着手
- ・ 津市コミュニティバスの整備と運行
- ・ 地域住民運営主体型のデマンド型交通等、新たな形態の公共交通の導入の検討
- ・ 高齢者に特化した割引制度の検討

津市高齢者外出支援事業

開始日	平成29年9月25日	 <p>(ICカード)</p>
対象	市内に住所を有する65歳以上の方（約8万人）	
内容	① オリジナルICカード（シルバーエミカ）を無償交付 ② 年間2,000ポイントを上限に乗車ポイントを付与	
詳細	<ul style="list-style-type: none"> ・ 三重交通Gの路線バス ➡ ポイント精算 ・ ぐるっと・つーバス ➡ ポイント精算 ・ 津市コミュニティバス ➡ カードの提示で無料 	
交付枚数	7,327枚（平成30年9月末時点）	
利用件数	<ul style="list-style-type: none"> ・ 三重交通G+ぐるっと・つーバス 39,781件 ・ 津市コミュニティバス 52,565件（全利用者の53.6%） <p>（平成30年9月末時点）</p>	

津市地域公共交通網形成計画の中間評価

◎評価テーマ毎に分科会を設置

	評価テーマ
分科会 A	公共交通ネットワークの構築
分科会 B	地域住民との協働
分科会 C	公共交通の利用促進

◎評価スケジュール

月	内容
4月	協議会 分科会の設置
5月	分科会 施策・事業の実施状況を確認
7月	分科会 施策等の実施状況进行评估
8月	分科会 平成31年度までの方向性を議論
11月	協議会 中間評価のまとめ
1月	協議会 改善策の検討
2月	協議会 中間見直し報告書の作成

◎評価方法

『津市地域公共交通網形成計画中間評価シート』を活用

目標1-1	数値目標からの評価	中間目標値	【参考】最終目標値	実績値 (H28)	評価 (A-E)	点数 (1-5)	合計点数	満点	割合	総合評価 (A-E)	31年度までの方向性
広域での移動を確保する	数値目標① 「幹線」と位置付けるバス路線の利用者	2,249,500 人/年	2,249,500 人/年	2,171,357 人/年	C	3					【数値目標①・②】 ・単独に年度単位の利用者数を比較するのではなく、人口減少率も考慮するべき。 【施策①】 ・バスロケーションシステムは既に売却している。 ・新たな幹線システムは平成30年度以降の計画であり、中間評価からは採り入れない。 ・新規施設への採り入れについては、計画段階から準備を図る。 【施策②】 ・鉄道のスムーズな乗車を促せるよ
	数値目標② 鉄道の利用者数	17,067,300 人/年	17,067,300 人/年	17,583,573 人/年	B	4					
	施策の実施状況からの評価		実施状況		評価 (A-E)	点数 (1-5)					
施策①	幹線の整備と運行	<ul style="list-style-type: none"> ・利用促進の活動が弱かった。 ・大型商業施設、公共施設への採り入れについては、路線を計画する中で考慮すべきである。 ・バスロケーションシステムを導入できたことは、高評価である。 		B	4						
施策②	乗車促進と待合環境の整備	<ul style="list-style-type: none"> ・鉄道との連携については、コミュニティバスのダイヤを鉄道の時刻に合わせて見直ししているが評価できる。 					20	30	66.7%	C	

①各項目の達成状況を5段階評価 (Cが合格点)

評価	数値目標	施策の実施状況
A	105%以上	80点以上 (大変よくできた)
B	100%以上105%未満	70点以上80点未満 (良くできた)
C	95%以上100%未満	60点以上70点未満 (できた)
D	90%以上 95%未満	50点以上60点未満 (やや不十分)
E	90%未満	50点未満 (不十分)

②総合評価

Aを5点、Bを4点、Cを3点、Dを2点、Eを1点とし、目標毎の合計点数/満点で評価
(評価基準は施策の実施状況と同じ)

③平成31年度までの方向性
総合評価に応じ、施策の改善策を決定

■ 目標値の設定

津市地域公共交通網形成計画の評価指標『「支線」と位置付けるバス路線の利用者数』について、地域公共交通確保維持改善計画では津市コミュニティバスについて地域毎の目標値を設定

■ 地域公共交通確保維持改善計画における目標値、実績値

地域	目標値（前年度比）		実績値（前年度比）		評価
	平成29年度	平成30年度	平成29年度	平成30年度	
★久居地域	100%	100%	91.9%	112.9%	B
★河芸地域	100%	97%	87.2%	144.6%	B
★芸濃地域	105%	102%	86.0%	162.7%	B
★美里地域	100%	93%	71.2%	84.3%	C
★安濃地域	100%	101%	98.1%	119.5%	B
★一志地域	105%	102%	92.0%	121.8%	B
白山地域	未設定	100%	111.5%	107.7%	A
★美杉地域	100%	95%	104.7%	106.2%	A

★国庫補助事業に関するもの

評価基準	A	B	C
		2年連続で目標達成	1年のみ目標達成

■ 津市コミュニティバスが接続する幹線バスの利用実績

津市コミュニティバス	接続する幹線バス (輸送量/日)	津市コミュニティバス	接続する幹線バス (輸送量/日)
★稲葉ルート	榊原線 (A) (60.7人)	★芸濃循環雲林院ルート (再掲)	安濃線 (31.5人)
★稲葉ふれあい会館ルート		★芸濃循環河内ルート (再掲)	
★榊原ルート		★明合ルート	
★桃園ルート		安濃ルート	
★野村ルート		★草生ルート	
★河芸循環北ルート	津太陽の街線 (15.2人)	★長野・高宮ルート	長野線 (40.4人)
★河芸循環南ルート		★辰水ルート	
★芸濃循環明ルート	棕本線 (89.6人)	★辰水ルート (再掲)	辰水線 (A) (15.6人)
★芸濃循環安西ルート		★川合ルート	
★芸濃循環雲林院ルート	亀山棕本線 (16.7人)	★高岡ルート	波瀬線 (32.6人)
★芸濃循環河内ルート			

★国庫補助に関するもの

■ 評価の実施日

平成31年1月11日 (金)

目標達成状況についての考察

白山地域	白山高校へ名張方面から近鉄電車を通う生徒による利用者増
美里地域	スクールバス導入による小学生の利用者減が顕著
全地域	人口減少に伴う利用者減 『津市高齢者外出支援事業』による利用者増

今後の方針

(津市コミュニティバス)

- ・利用者の少ない路線について、路線の見直し及びデマンド方式の導入を検討
- ・『津市高齢者外出支援事業』のPR
- ・高齢者を対象とした『バスの乗り方教室』など利用促進活動の強化

(幹線バス)

- ・主な利用者に合わせた利用促進活動を実施

路線名	主な利用者
津太陽の街線	通勤、通学
亀山棕本線	通学
辰水線 (A)	通勤、通学、通院など多様

■課題① 津市コミュニティバスの利便性向上

新たな取組	これまでの取組の継続
利用者のニーズに応じた新たな路線の検討	地域公共交通あり方検討会等を活用した地域の意見の反映
デマンド方式導入についての検討	新たな施設等への接続
	鉄道や幹線システムのダイヤ変更に合わせてたダイヤの見直し

■課題② 利用促進活動の強化

新たな取組	これまでの取組の継続
高齢者を対象とした『バスの乗り方教室』	小学生を対象とした『バスの乗り方教室』
	津まつりでのブース出展
	バスの日の街頭啓発
	みえ交通安全・環境フェスタ
	MMシステムを活用した啓発
	広報紙への『公共交通に関する記事』の掲載
	『津市高齢者外出支援事業』のPR
	沿線学校へのチラシ設置等
	運転免許返納割引・運転免許返納割引定期券のチラシ設置（警察署、運転免許センター）

平成30年度 地域公共交通確保維持改善に関する自己評価概要（経緯）

津市地域公共交通活性化協議会

平成20年8月20日設置

フィーダー系統 平成29年5月30日 確保維持計画策定

直近の第三者評価委員会 における事業評価結果	事業評価結果の反映状況 (具体的対応内容)	今後の対応方針
<p>幹線の評価がどの路線もよろしくない結果となっている。他人事でなく、津市としてモニタリングする必要があるのではないか。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 幹線輸送量の数値は三重県から提供 ・ 地域公共交通あり方検討会や地域懇談会で地域のニーズを把握 	<p>1日あたりの輸送量が補助対象基準の15人を割り込む恐れのある路線を中心に、利用促進活動を継続</p>
<p>美杉地区はJR名松線の復旧と合わせて取り組みを実施する必要があったのではないか。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 復旧時：「伊勢鎌倉駅前」停留所を新設 ・ 復旧後：乗継に合わせたダイヤ改正、観光客向け土日祝日ダイヤの設定、沿線マップの作製等の魅力発信事業 ・ 地域住民による京丹後市への視察（デマンド交通）を実施 	<p>名松線のより一層の利活用に向け、津市コミュニティバスのダイヤ及び路線の見直しを検討</p>
<p>幹線、フィーダーともに現状の危機的状況に対する意識を持ち、当事者として対応施策に取り組んでほしい。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 津市高齢者外出支援事業を開始 ・ Webを活用したモビリティマネジメントの実施 ・ オーダーメイド時刻表『わたしの時刻表』の取組 ・ 隣接市と協力し、中学校や高校へチラシを配布 	<p>高齢者を対象にした『バスの乗り方教室』を新たに実施</p>

